

埼玉労山

埼玉県勤労者山岳連盟

機関紙：発行責任者 武笠真次
編集 小松勝浩

〒330-0063
さいたま市浦和区高砂4-1-5ふじビル2階
TEL・FAX 048-838-0640

<http://www.tozans.jstphbs.jp/>

第1回評議会について

6月16日(日)13:30受付14:00開会

於：浦和コミュニティセンター9F第15集会室

第16回遭難防止・安全教育担当者会議について

6月16日(日)9:00受付 9:30開会

於：武蔵浦和コミュニティセンター8F第2会議室

創刊号

創刊号目次

P1	第46期埼玉県連定期総会
P3	訃報
P4	県連の動き
P6	第46期県連役員
P7	第18期登山学校開校式
P8	雪山ネット
P9	雪山ネット
P10	岩ネット
P11	救助隊活動報告
P12	山スキーネット
P13	足尾植樹デー

第46期 埼玉県連定期総会

第46期定期総会2012年度活動報告

・・・武笠理事長より報告

組織拡大・・・青年対策、既存の会による自助努力

- ホームページや登山学校を通じて若者や中高年の意見に耳を傾けて会員拡大に繋げた。
- 会員の知恵を出し合い、登山の魅力を会報やホームページなど外に向けて発信していくこと、みなさんが参加して作っていく意識がもっと大切なことであり、山仲間だと感じた。

個人会員加入制度

個人会員制に選択肢を持たせた形で全国連盟理事会の言う5年後を目標に実施するというハードルを低くして5年後、10年後を見据えた展望を持つ。個人会員制に反対、賛成の加盟団体の意見があることは事実である。いま、60歳以上の方で比較的時間に余裕のある協力できる人たちで何ができるかを検討する話し合いも必要ではないかと思う。ジリ貧では高齢化に対して会員の減少に歯止めをかけられなくなる時期がやってくることをしっかり認識して行くべきと捉えたい。山ガール・山ボーイなど若い世代等は年齢に関係なく今山に登りたいという要求があり、知識・技術を学びたい人たちも増えている、既存の会が持っている山のノウハウや組織力を入会者に触れ、仲間と一緒に活動していくことで安全教育や安全対策が確立して埼玉労山のスローガンである「明るく・楽しく・安全に」に結びついていくと考える。それを外に発信していくことで組織の拡がりを作るチャンスができていくと感じる。

新特別基金

加盟団体から提出された交付申請に対して遭難防止・安全教育担当者会議で検討し、会や全国連盟遭難対策基金管理委員会に提言はできなかった。

加盟団体で使用している登山計画書を持ち寄り、提出日と受理日がきちんと記入されているか確認ができた。今後の新特別基金申請時には登山計画書に提出日と受理日がきちんと記入されたフォーマットで申請できるように生かしたい。・・・P2へ続く



つづき・・・武笠理事長より報告

事故防止

安全の柱を確立するための安全登山講演会、登山学校、遭難防止・安全教育担当者会議、救助隊、女性委員会、ハイキング委員会等の専門員会を通じて安全意識の高揚、啓発することができた。今後も引き続き、継続したい。

各ネットの充実

岩ネット、沢ネット、山スキーネット(これからの予定)の企画を組み、事故が多発するなか安全に登山するには、楽しい山行をするには、を捉えて主催者側の賠償問題も含めて深掘することの意義、安全対策について話しあえた。決して無理はしないことが大事であると感じた。

埼玉労山震災支援活動

各加盟団体の震災支援は4月13日夜から15日まで宮城県石巻市“小網浜”新座山の会3名でご尽力を頂けたが、昨年1月に行った県連活動以外は主体的に行うことができなかった。



2013年度活動方針・・・武笠理事長より提案採択

①組織拡大・・・青年対策、既存の会による自助努力

- a. 青年層に対する考えは登山学校など若い人、中高年の意見を確認しながら、会員拡大に繋げたい。
- b. 会員の知恵を出し合い、登山の魅力を語り合える山仲間を作る。若い人を受け入れる会・クラブの体制作りを積極的に推進する。みんなが参加する型のホームページに各会の紹介、情報を入力する。埼玉労山の団体から労山以外の団体、一般市民へ外に向けて情報を発信していく。
- c. 各会・ハイキングクラブの悩みなどの情報を埼玉労山全体としての問題と捉え、共有して話し合える場を提供する。

②個人会員加入制度

- a. 埼玉労山としては当面、全国連盟の動向見ていく。当面個人会員制は行わない。
- b. 個人会員制がスタートしたなかで今後選択肢を持たせた形で5年後10年後を見据えた展望を持つ。また、反対・賛成の意見がある中で、60歳以上の方で比較的時間に余裕のある協力できる人たちで何ができるか機会を捉えて論議する。

③新特別基金

- a. 山小屋での飲酒によるケガなど、会員意識付けも大切。
- b. 加盟団体から提出された交付申請に対して遭難防止・安全教育担当者会議で検討し、会や全国連盟遭難対策基金管理委員会にも提言する。
- c. 登山計画書フォーマットで提出日・受理日を入れる事を推奨する。
- d. 登山計画書に持病がある場合は、病名を掲載することを啓発する。

④事故防止

安全登山講演会、登山学校、遭難防止・安全教育担当者会議、救助活動、女性委員会、ハイキング委員会の活動を通じて安全の柱を確立する。

救助隊で登山技術の講習会を行ないたい。・・・P3へ続く



つづき・・・武笠理事長より報告

⑤各ネットの充実

各ネットに登録してもらい、活動情報を発信する。

また、参加者には安全を期するために参加確認書に記入して頂く。

例) 岩ネット、山スキーネット、雪山ネット、沢ネット等

⑥埼玉労山震災支援活動

a. 加盟団体の協力を得て東日本大震災支援を行う。

b. 長期にわたる支援となるため、決して無理はしない。

c. 加盟団体から要請、提案を受け入れ、現地と連絡は原則として理事会が行う。

連絡責任者：理事長、副理事長とする。但し加盟団体が直接現地と調整する範囲はこの限りではない。

d. 被災地への旅行等で特産物を購入・販売し、現地を励ますと同時に支援活動資金とする。

NPO法人「ちば労山ゆう」に加盟し、被災地での支援活動の関連情報を収集する。

「2013年第2回評議会で評議員からの討議事項について」

代議員選出要綱第3条、評議員選出規定第2条の選出方法の明確化・・・規約、規定改正提案提案
に対する討論、採決された。
以上



訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

去る5月18日 県連盟副理事長・県連盟救助隊長
大宮勤労者山岳会会長 徳重博文様が逝去されました。同18日お通夜、19日告別式が営まれ多くの山仲間に見送られ、長き旅路に旅立たれました。

長年にわたり県連盟を役員として支えていただき連盟の発展に大きく貢献いただき本当にありがとうございました。お礼と共に心よりご冥福をお祈り申し上げます。

県連盟役員一同



県連の動き

委員会活動報告

県連全体活動

3/24(日)浦和パルコ10階第13集会室提出議案は承認されました。

事務局

・新規加盟団体：彩の山友会(男4、女2 計6名)3/10設立(春日部・南部ブロック所属)代表 大澤 忍 氏

・第1回評議会について

6月16日(日)13:30受付 14:00開会

於：浦和コミュニティセンター 9F 第15会議室

議題：会運営についての意見交換会

財政

総人数は643名。今年度の財政基本人数です。連盟費請求書

機関紙

前担当者が理事を辞任されたため現在担当者不在です。185号から一時休刊になります。休刊中は臨時にホームページ担当が兼務して機関紙電子版を毎月第2水曜日を目標でホームページ上に掲載します。会で必要な場合はHPからダウンロードして会員各位に配布願います。従来の機関紙をご希望の方、ぜひ役員として理事会に御参加いただき機関紙復活にお力をお貸し下さい。尚、電子版はA4サイズ・PDFファイルになります。

組織

発送全国連盟からの組織アンケートについてご協力御願います。

ホームページ

岩ネット参加報告掲載/足尾植樹デー参加報告掲載/救助隊年間活動予定及び第1回役員会報告掲載/彩の山友会紹介ページ追加/山スキーネット日白山交流山行記掲載/岩ネット年間計画書掲載/救助隊年間計画掲載

女性

5/19体力測定40名参加：新座1 大宮1 蕨1 やまなみ4 所ハイ1 計8名参加

ハイキング

ハイキング委員会5月29開催 市民サポセン

自然保護

・「足尾植樹デー」4/28

・クリーンハイク5/26----次号に活動報告掲載予定

労山自然保護憲章のパンフレットを全国連盟にもらうように手配する。

女性委員会から お知らせ

2013年度第一回女性委員会を開催します。

期日:2013/7/1(月)

場所:朝霞台ジョサツ

時間:19時:~

議題:今年度の具体的な取り組みについて
女性委員会に興味のある方は気軽に覗いてみて下さい!

一緒に楽しい活動を創り出して行きませんか!!

**委員会活動報告****海 外**

特に活動報告無

遭難防止・安全教育

第16回遭難防止・安全教育担当者会議について6月16日(日)9:00受付
9:30開会 於：武蔵浦和コミュニティセンター8F 第2会議室
議題：山でのヒヤリハット

救 助 隊

4/1(月)救助隊総会、4/13(土)～14(日)関東ブロック救助隊雪山搬出訓練・交流集会参加者30名講習と訓練がA・B2班に分かれて行われた。4/15役員会、HPにのせる。5/12(日)救助隊訓練山行(妙義ロックガ・デン)・セルフレスキュー実技講習の依頼あり(三郷山の会より、場所・日程は一任)・天覧山のゲレンデ使用について・使用届をお寺に事前にFAXで送る。現地使用時は下から行かずに、上から。5/27役員会9名参加 隊長の件協議 柴山副隊長を中心に水谷氏、浅見氏がサポートして活動していく。

登山学校

開校式5/18(土)に行われました。18期受講者数30名。内会員9名無所属21名

岩ネット

4/13(土)日和田山 参加者9名、新座2/飯能2/大宮1/所沢1/三郷1/わらび1/講師水谷
次回：5/18(土)から5/25(土)に変更。・新しいゲレンデが吾野に開かれました。
日和田ゲレンデの整備を広瀬ガイドが労山に頼まれてやることになりました

雪山ネットワーク

3/18(月)浦和パルコ9F19:30～計画・打ち合わせ会
3/30(土)～31(日)黒姫山(雪山初級・テント泊)
4/15(月)浦和パルコ9F19:30～計画・打ち合わせ会 4/20(土)～21(日)
越後・八海山(雪山中級・雪洞泊)

山スキーネット

2013年 日白山3/3(日)

沢登りネットワーク

特に活動報告無



ブロック活動報告

西部 = ブロック会議・3/14議題植樹祭・4/11議題クリーンハイク・5/16(会議予定)
 南部 = ブロック会議・4/18議題クリーンハイク・5/26実施
 中部 = ブロック会議・企画：交流雪山(雪山のテント泊)阿能川岳10名
 北部 = ブロック会議・3/11クリーンハイク・5/26奥武蔵笠山

山をきれいに クリーンハイク開催



加盟団体活動報告

総会情報：4/6所ハイ、4/7新座・富士見市峠山の会、4/14三郷山の会(20周年)
 4/27わらび山の会(40周年行事含む)

第46期県連役員

役職名	氏 名	県連任務	所属会
理 事	武笠真次	理事長	わらび山の会
理 事	長谷川貞子	救助隊	大宮勤労者山岳会
理 事	尾手利雪	遭難対策・救助隊	三郷山の会
理 事	佐藤久子	副理事長・ハイキング	三郷山の会
理 事	小松勝浩	登山学校・HP	三郷山の会
理 事	嶋田好枝	財政	新座山の会
理 事	加納隆夫	副理事長・自然保護	新座山の会
理 事	久保典子	女性委員会	新座山の会
理 事	木村哲也	事務局長	熊谷トレッキング同人
理 事	高橋利男	ハイキング	富士見市峠山の会
理 事	水谷克明	岩ネット・登山学校	彩の山友会
理 事	藤岡 新	自然保護	日進山岳会
理 事	若木由和	救助隊	上福岡山なみハイキングクラブ

登山学校

5月18日に第18期登山学校開校式が北浦和カルタスホールで行われました。校長の武笠理事長挨拶あと、事務局より担当講師の紹介・講座の説明(スライドを交え)が行われました。今期は30名の年間受講者でスタートします。労山会員が9名一般参加21名の構成です。一般参加の方にはぜひ労山会員になれるよう勧めていきたいと思ひます。

各山の会の方も公開ハイク等何か企画があれば受講者の皆さんにご紹介しますので事務局まで連絡下さい。場所を移動しての懇親会にも例年以上に多数の方が参加され18期に向け親交を更に深めることが出来ました。

また高野久美さん(彩の山友会)を運営委員に新たに迎え更に充実した登山学校にすべく体制の強化を計りました。今期もスポット参加は、登山学校卒業生に限りますが若干名受付いたしますのでご希望の方は早めに事務局までお申し込み下さい。



高野久美さん

次回講座 6 / 8、9「計画から下山まで」
事務局 小松勝浩 記



第18期登山学校運営委員

事務局長

氏 名	県連役職	所属会
武 笠 真 次	県連理事長	わらび山の会
駒 崎 弘 安		わらび山の会
伊 藤 正 勝	全国理事	わらび山の会
高 橋 五 男		浦和くまざさ山岳会
軽 部 章		浦和山の会
水 谷 克 明	県連理事	彩の山友会
大 澤 忍		彩の山友会
高 野 久 美		彩の山友会
尾 手 利 雪	県連理事	三郷山の会
八 木 原 健 一		三郷山の会
小 松 勝 浩	県連理事	三郷山の会



雪山ネットワーク

参加報告 三郷山の会 渡辺敦司記 3月30日(土)~31日(日)
黒姫山(雪山初級・テント泊)に参加して

朝7:00、大宮駅代ゼミ前に集合し、車2台で出発。横川SAで休憩を取り、10:30頃には信濃町ICを下り、いくらか走らずにPポイントへ到着した。

共同装備の振り分け&身支度をしビーコンも装着、準備が整ったところで位置確認をするも、なんと予定していたPポイントより2Km以上離れた位置にいることが判明。

どうやらPポイントをまちがえたらしい。しかしそこは岳人

登山口まで歩いてゆくこととなった。途中、登山口に着く前に1本たてる(休憩)ことに。

さらに車道を歩き、ようやく登山口らしきポイントに到着。ここからは傾斜のあまりない樹林帯の中を歩いてゆく。少し進むと開けたところにでた。標高970m付近、時刻はすでに2時をまわっている。



予定幕営地は1400m付近だ、まだ400m以上登らなければならない。輪かんを装備し、出発。ようやく傾斜がでてきて山を歩いている感じになってきた。アイゼンに履き替えさらに上を目指す。

1100mを越えたあたりで16時をまわった為、当初の予定より低いがここで幕営することになった。けっこうな傾斜の為どうなるのかと思っていたが、スコップで斜面を切って平にするという。初めて経験したのだが、結構な広さを確保でき、大きなテントでも問題なく設営できるという事に大変驚いた。テント2張りの整地から設営までは1時間程度で完了、大きい方のテントに全員集合し17:30夕飯が始まった。今回のメニューは生姜焼井。まずは水の精製。雪を溶かして水にするという作業を初めて実際に見て、シリコン製折り畳み漏斗を使用しキッチンペーパーでろ過するという工程がとても参考になった。一応50程度水を持参していたのだが、結局使うことはなかった。炊飯と炒め、そして晩酌が同時に進行してゆく。やはり、どこの会でも山とお酒はセットのようだ。夕飯も終わり20:30明日にそなえ、自分のテントへ戻り就寝。今回はソロテントで参加させてもらったが、気温もそれほど低くなく、あまり寒さを感じずに過ごすことができた。



翌朝3:00起床、雨の為ピークは中止、5:00に大きいテントへ集合し朝食、メニューはうどん。朝食を食べているあいだに雨は上がったもののガスっている。この天気も長くはもたないらしい。7:00テントを撤収し下山開始、2時間かからずに登山口付近へ到着。ここからまた長い車道歩きが始まると思っていたのだが、往路とは違う道へ行くことに。

ちょっとした渡渉や、道なき林の中を進んだりして意外に時間を使いながらもPポイントへ到着。車に乗り込み温泉へ。

1時間ほど風呂に入り帰路へ、14:00東武湯の丸でちょっと遅めの昼食をとり、嵐山で今回の山行費用を精算。17時ごろ大宮駅前に到着し、解散となった。

普段の山行は電車での移動が多い為、車での山行は快適であった。また、斜面での幕営方法や、スコップ重要性、水の作り方など、色々と学ぶことができたし、不足しているアイテムなどもまだまだあり、雪山は道具をそろえるのにもものすごく金が掛かる事を実感した。今回は天候不良の為、残念な結果になってしまったが、機会があったら今度はピークを踏みたい。



雪山ネットワーク

参加報告 大宮労山 高坂 稔記 3月30日(土)~31日(日)
黒姫山(雪山初級・テント泊)に参加して

3月18日浦和パルコで打合せ会との事でしたが、3月17日・18日で八ヶ岳北横岳山行の為に打合せ会には間に合わないと思っていました。ところが、18日は2000m以上では風速30mでホワイトアウトに近い状態の為に朝飯を食べてそのまま下山となり無事？打合せ会に参加出来ました。打合せも無事終了し帰宅の為に電車に乗ると昨年黒姫山に行ったT川さんにバッタリ会い・黒姫山良かったよとの感想を聞いて期待大で眠りにつきました。

30日は大宮の天気は雨模様、黒姫山の天気期待して予定通りam7時に出発しました。途中、長野の小諸で太陽が出てきて天気予報通りの天気に期待を膨らませますが現地に近付くと雲が太陽を隠しています。所定の場所？に車を止め、共同装備の割り振りを行い、山頂を目指します。

延々と一般道路を歩くが中々登山口に到着しない。そのうちに計画書に有った駐車場所の長水を超えて登山口に到着しました。地図で現在位置を確認しながら登り始めるが夏山登山と違い明確な足跡がないので地図で地形を確認し、目印テープを探しながら歩くのでスピードが出ない。地図が読めないうちはトレースがしっかりした雪山でないと単独行は出来ないなと思いながら、みんなの後をついて行きます。途中途中でワカン、アイゼンを装着して登っていきますが、1300m付近で16時となったので計画より低い場所であるがテントを張る事にしました。

まずは、テントを張るためにみんなで協力してスコップで整地します。整地が完了したら3張のテントを張り、一番大きなテントに集合し夕食の準備をしながら、反省会となります。盛り上がった反省会を翌朝3時起床の為に中断し各自のテントに戻り、お休みタイムとなりました。

3時に起きるとテントがパラパラと音がしています。予定より早く雨が降って来たようです。リーダー判断で登頂が中止となり、ゆっくりした朝食となりました。朝食を食べ終えて・テントを収納すると雨が一時的に止んでしまいました。みんな恨めしそうに空を見上げていますが、時間がないので下山となりました。一般道路に出てから、また延々と歩きたくない為にGPSを頼りに2パーティーに分かれて車を目指しますが川が邪魔して迂回をさせられ、思った程時間短縮となりませんでした。これも楽しく良い経験でした。最後に温泉に入り汗を流して無事大宮に到着しました。今回は登頂出来なく



残念です。特に雪山初山行の方は非常に残念と思います。晴れた日の頂上からの景色を是非堪能して欲しかったです。今回も色々有りましたが、私自身の課題として今後は地図を見ながら山行を目指したいと思います。 以上

岩ネット

第1回「岩ネット」に参加して。2013.4.13 三郷山の会 渡辺敦司記

今回、初めて岩ネットに参加させてもらった。9時に日和田ゲレンデに集合ということで、交通費をケチる為自転車で向かう事にした。片道55キロ程度なので、3時間もあれば余裕だろうと思っていたら、途中道を間違え初参加にもかかわらず遅刻 なんとか到着し、自転車を担ぎ岩場へ上がっていくと、祭りか？と思うほどの賑わいである。早く合流しなければと思いつつもあまりの人の多さに、何処で行っているのかわからず、それっぽいグループを片っ端から覗いていき、なんとか合流することができた。早々に準備を整え、岩の前に立つも、最後に岩を触ったのは登山学校の時以来なので半年ぶりくらい、優しい岩でもまったく登れる気がしない。

大丈夫だからと言われビビりながらもトライ。恐怖で腰が引けながらなんとか上まで到達、よし、これで降りられる！と心の中でガッツポーズしローワーダウンで下してもらう。

登ることより、降りることの喜びを感じるという、本末転倒な心境にさせるとは恐るべし、岩!! しかし、最初にクライミングを体験した時とちがいミシンを踏まなかっただけ、ちょっとは進歩しているようだ。無事、地に足が着きホッとしていると、「よし、じゃあもう一回いってみようか」と悪魔の囁きが! 「え、いいんですか? 」と、いかにもやりたいけど他の人もいるよ的なニュアンスで返答すると、にっこりと笑顔でうなずかれてしまった。恐怖の二本目確定である。一本目の登りを踏まえてアドバイスをもらい、クライムオン。からの~クライムダウン! なんて出来るはずもなく、ローアーダウン。「1回目より登りやすかったでしょ」などと聞かれても、恐怖で頭の中が占領され、登り方など意識する余裕など皆無だ、落ちないとわかっていても恐怖感がぬぐえない。キミは練習すればうまくなるよという言葉の励みにして、もう少し頑張ってみることにした。昼をさみ、午後は男岩西面での練習。講師が簡単そうにサクサクと登っていき、ロープを設置。午後になって、さらに混み合ってきた「こんなに混んでいるのは初めてだよ」などという声も聞こえてくるほどだ。登っているのにロープが垂らされたり、交差したりすることが結構頻繁に発生。いやいや、危険すぎるだろ、最低限のマナーは守ってもらいたいものだ。自分の番になり、いざスタート位置へ。ふつうに壁だぜ、しかも一番上微妙に出っ張っているしマジ無理っす。などと思いつつも何食わぬ顔でスタート、ゴール手前の出っ張り、攻略法が解らず、腕がパンプしギブアップ。しかし初回にしてはなかなか登れた事に驚いた。何回かチャレンジし、やはり同じところでつまづいていてしまうが、少し楽しくなってきたような気がする...かもしれない。これからは極力参加して、肝を大きくしていきたいと思う。そしていずれはハングなどにも挑戦できるようなレベルに達することができればいいが、その前に挫折してしまわない事を祈ろう。



岩ネット

岩ネットに参加して 2013.5.25 場所・日和田山ゲレンデ(男岩)

参加人数・10名 新座山の会 中谷みゆき記

12月から参加させていただいている岩ネットの日和田山ゲレンデのクライミング。都合がつかない時もあり、今回、ようやく4回目の参加となりました。特に、今回はビレーをやりたい！とお願いしてビレーの指導もしていただき、総合的にはかなりの充実感を得ました。

ビレーをやってみて思うのは、こんなに大変なのだ！ということ。ずっと上を向いているので首は痛くなる。10mmのロープを慣れない手つきで裁くので、力が入りすぎて帰りには、もう手が痛くて、痛くて。皆さんはいつもビレーをやりながら、岩も登っているわけで・・・ビレーヤーが少ないと大変なのだと感じました。次回からも積極的にビレーもやらせてもらいたいと思います。ビレーのときはロープを引き過ぎてクライミングの邪魔をしないようにすること、おろす時の速度なども、クライマーをよく観察して自分のものにしていきたいです。

肝心のクライミングのほうは・・・2回目の参加くらいまでは、とにかく登ることに慣れようという感じで挑戦していましたが、やはり、ムーブに気をつけ、ホールドも掴むより抑えるとか、引くとか、なるべく無駄な筋力を使わないようにこなしていけないと、手が、パンパンに張ってしまい、結果的に、何本も登れなくなってしまうことに、やっと気がついたところです。早く登ることより、手がかり、足がかり、動きに注意し、少しでも無駄な力を使わないように気をつけ、次回はチャレンジしてみたいです。また、見ることも大切だと思いました。今回は女性に上手な方がいたので、その方の無駄のない動きは大変参考になりました。確かに、参考になったからといって私にすぐ出来るわけではありませんが。次回参加のときも、上手な人の動きをよく観察し、少しでも自分のものに出来るように努力したいです。

救 助 隊

第1回救助隊役員会報告

事務局長 尾手利雪日時・2013年4月15日(月)19:30～21:00 場所・浦和パルコ 9階

出席者：徳重博文、柴山利幸、水谷克明、木阪康弘、谷脇京子、長谷川貞子、小島満、尾手利雪
計8名

議題

- 1.2013年度の役員体制、日程等の確認、総会の通り日程での場所は役員会で検討する。
- 2.4/13、14関東ブロック合同深雪訓練の報告、関東ブロック参加人数28名、梱包についてはストレッチャー使用での東京方式流れがよくわかった。詳細は木村氏が報告書を提出するとのこと。
- 3.5月12日(日)救助隊訓練山行の場所選定・場所：妙義ロックガ－デンを予定・集合：現地・参加予定者 徳重、尾手、小島、谷脇、案内を救助隊員に知らせて参加者数が10名以下の場合は中止
- 4.セルフレスキューの依頼 三郷山の会より要請あり実技のみで日程場所は救助隊に一任、救助隊員よりの参加予定は尾手、水谷、小島
- 5.その他
 - 1)退隊者：宮崎氏(登攀クラブ岩つばめ)
 - 2)入隊者：渡辺氏(三郷山の会)
 - 3)現在の救助隊員数は28名
 - 4)天覧山のゲレンデ使用については正式な手続きで使用可能、詳細は理事会にて報告
 - 5)徳重隊長より5月連休中での山行中の事故には注意してほしいとのこと。

山スキーネット

日白山 2013/3/3(日)

時折小雪の舞う二居の集落の駐車場で、新座山の会の湊見さん、菅野さんと、大宮労山の青島さんと合流し、昨日の大雪でさらに積雪量を増した白と黒のコントラストの景色を見ながら、林道を除雪最終地点まで板を担いで歩いた。

970mの地王堂川右岸から左岸に横断する地点は少し神経を使い、約5m程切れ落ちた雪壁を慎重に下った。

左岸の1180m地点までは新雪の林の中で、午前中の気温が低くシールがよく効く心地良い登行となった。休憩を取り、これから始まる急登に気合を入れた。スプリットボードのメンバーもカー杯ラッセルで皆を先導し、順々にラッセルを交代しながら急登にキックターンで挑んだ。雪質は一定ではなく厳しい登りとなり、次第に新雪がクラストした雪に変わり、そして風の当たる場所では固く氷雪化した上にうっすらと新雪が乗っているだけの気の抜けないスロープとなり、CL宮田さんの判断でクトーをスキーに装着した。

きつい登りではあったが、稜線まで上がると視界が広がり、登ってきた森の向こうには二居の集落を見下ろすことが出来た。軽食を取り、稜線右側の深い谷へと誘う雪庇に近づきすぎないように注意しながら頂上を目指した。

平標山を中心に深く切れ落ちた谷沢はとても厳しく、この稜線にある綺麗な樹氷とは雰囲気が対照的であった。頂上直下でスキーをデポし、胸まで雪をかき分けながら登頂した。不安定で少し風のある頂上の滞在は短時間で、スキーをデポした地点に戻り、シールを剥がして滑走の準備をした。

急斜面のあるコルまでは、稜線の軽い新雪を行き、コル下の一本目は下地がアイスパーンでエッジを効かせながらの滑降となった。

二本目はとてもすばらしく、ふかふかのパウダスノーを撒き散らしてのベストランとなった。続く急斜面の雪質も良く、皆、林の合間を颯爽と滑り降りた。刻々と雪質は変わり、地王堂川が近付くと重たくなってきたが、各自が描く思い思いのシュプールは今日の山行がとても素晴らしかった事を表していた。



2013年3月3日 日白山
埼玉県連：山スキーネット



自然保護

『足尾植樹デーに参加して 2013/4/28 参加感想西部ブロック』

今年は出発を30分遅らせ6時30分に40名が2台のバスに分乗して、ふじみ野駅前を出ましたが途中で渋滞に遭いました。

渋滞の原因は警察の大掛かりな路肩走行違反の取り締まりでした。

そのあとは順調に走りましたが、会場に着いたのは10時過ぎで開会式は既に終わり植樹が始まっていました。

いつもなら、一番先頭で数百段の階段を登りましたが、今年は既に上部がいっぱいで、200段辺りでの植樹になりました。

今年は苗が多かったのか苗が随分余り、いつもなら1人3～4本なのに10本以上植えました。

植樹を終わり、主催者用意の豚汁を飲みなが爽やかな好天の下で昼食をとりました。

12時半からバスで移動し、船石峠から備前楯山を往復しました。

栃木県にあって何故「備前」なのか？それはこの山に銅があるのを発見したのが備前（今の岡山県）出身の2人だったから。また「楯」とは鉾脈が露出している場所を「楯」と云うので以前は黒岩山と云われていたのを「備前楯山」に改名したとのことです。

この山は、アカヤシオのツツジが有名で、ピンクの花のトンネルを楽しみにしていたのですが、まだ頂上付近にチラホラと咲いているだけでした。

登山の後は、温泉が一番。渡良瀬鉄道の水沼温泉駅にある温泉で汗を流し、思い思いに振り返りをしながら飲食を楽しみました。

満開のアカヤシオには恵まれませんでしたが好天のもと多くの仲間と自然保護の植樹をし、登山と温泉が楽しめた有意義な一日でした。

